

旭川市地域公共交通網形成計画の主な取組状況

事業 1 路線網に関する事業

○ 旭川環状通り循環線実証実験

令和元年10月1日より、居住地域と中心市街地を結ぶ路線ではカバーできない居住地域間の公共交通利便性の向上のため、旭川電気軌道（株）及び道北バス（株）により、実証実験として旭川環状通り循環線の運行を実施した。令和2年10月から本格運行を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用が低迷し、本格運行に向けた検証に必要なデータ収集が十分ではなかったことから、バス会社においてこれまでの結果を検証した上で、令和2年10月12日から起終点及び便数を変更し、実証実験を継続することとした。

○ P T P S 導入の検討

旭川市、交通事業者、北海道警察間で協議を行い、P T P S の整備の規模が大きくなる事や、機器、システムが複雑で整備費用が高額になることから、整備に当たってのハードル、費用対効果を踏まえ、市内で既に9カ所の交差点に設置されているバス感知器の調整による信号制御の実施によって、バス交通の速達性の向上を目指す方向で調整中。

※P T P S（公共交通優先管制システム）とは、道路上に設置された光ビーコンとバス車載器が通信を行い、その情報を元に信号管制システムが信号の制御を行うことで、バスの速達性や定時性を向上させるシステム。北海道においては札幌市のみが導入。

事業 2 郊外路線に関する事業

○ 米飯線（デマンド交通）に関する利用促進等

主たる利用者である地域住民に利用促進に向けた意識啓発を行うため、地域住民との意見交換会、利用についての出前講座等を実施するとともに、関係機関との協力体制の構築や、住民の声を聞くことによるサービスの向上を目指していく。

※令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、意見交換会、出前講座等は未実施。

事業 3 交通拠点に関する事業

○ バスキタ！旭川及びデジタルサイネージを活用した駅前におけるバス案内の充実

旭川駅周辺におけるバス乗り場及び路線の分かりやすさ向上のため、バスキタ！旭川と連携したバス案内サイン（デジタルサイネージ及びサイン上に配置されたQRコードの読み取りによるスマートフォン上におけるバス案内の仕組み）を駅前広場に設置。

- 旭川駅前のバス案内機能の強化
観光物産情報センター、交通事業者間で旭川駅前における交通の案内等のさらなる向上を目指して、現場レベルでの意見交換を行う。
※令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症により未実施

事業4 乗継ぎ環境、利用環境の改善に関する事業

- 多方面の路線が接続するバス停の乗り継ぎ案内の充実
「バスキタ！旭川」とQRコードを用いたスマートフォン上におけるバス案内の仕組みを生かし、多方面の路線が接続し、利用の多いバス停におけるバス案内を向上させる。令和2年12月よりバス案内QRコードの発行機能を「バスキタ！旭川」に実装。発行したQRコードは官民間問わずチラシ、パンフレット、ポスター等において無料かつ自由に使用可能。（詳細は資料1-3に記載）

事業5 バリアフリーに関する事業

- ノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーの車両の導入
身体障害者や高齢者など、身体の不自由な乗客にとっての利用がしやすいよう、バリアフリー車両の導入を各社において進めている。
導入には国庫補助を活用するほか、ユニバーサルデザインタクシー車両の導入には市補助も実施。

事業6 観光に関する事業

- 外国人向けの多言語化の実施
バスキタ！旭川及び駅前に設置するデジタルサイネージを多言語対応させ、増加する海外からの個人旅行客に対応。

事業7 利用促進に関する事業

- 公共交通利用促進策の実施
JR北海道、北海道、市町村による線別アクションプランに基づいた鉄道の利用促進を実施。例年実施していた「バスの日イベント」「タクシーの日街頭啓発」については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

- 公共交通マップの作成
令和2年12月のダイヤ改正内容等を反映し、年度内に「あさひかわ公共交通マップ2021」として発行予定。

事業8 安定運行に関する事業

○ 運転体験会や就職相談会などの実施

北海道は、10月26日（土）に旭川市内で路線バス運転体験合同就職相談会を開催した。なお、道北バス(株)及び旭川電気軌道(株)では、新規雇用者に対する大型二種免許取得に対する支援を実施している。

○ 路線バス乗務員確保対策助成金

路線バス乗務員を安定的に確保するため、令和2年度より旭川市に近隣を除く他自治体から転入し、路線バス会社に就職した者に対して助成金を交付（道外30万円、道内10万円）R2.12.22時点実績 1名